

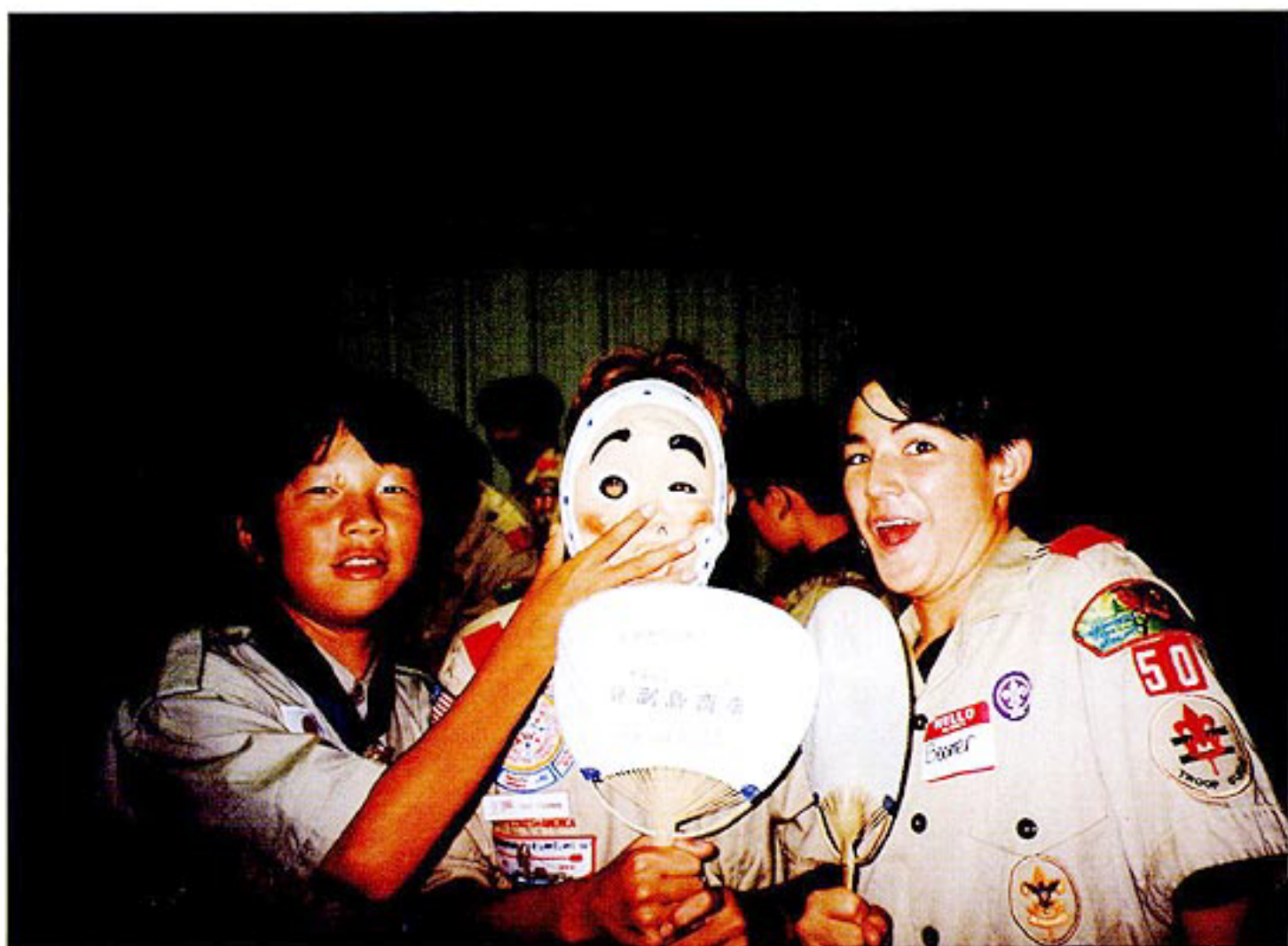


スカウト 浄土

The Scout Jōdo

浄土宗 スカウト

海外派遣 特集号





カバリロビーチキャンプ場にて

雲海の彼方の皆様に感謝

浄土宗スカウト連合協議会理事長

北米・ハワイ派遣団長

溪 逸 郎

浄土宗スカウト連合協議会結成三十周年を記念して北米開教区別院、ハワイ開教区別院および同各寺院を巡拝する第六回海外派遣の大会が如来様のみ護りと、数えきれないほど沢山の皆々様のお陰をもって、まことに意義深く、又障碍なく無事に終了できましたことを心の底から感謝いたしております。

私自身は、相も変わらぬ雑事に追い回されて旅の準備も整わぬまま、又お盆の行事もそこそこ、出発のご挨拶のためにと祖山に登り、皆様の激励の言葉やお見送りを後に関空より機上の人となつて、ようやくほっと一息、それからやっと団員名簿を広げると言ったあわただしさ

でありましたが、事務当局の皆さんの準備万端はとどこおりなく、なんなく太平洋の雲海を飛び越えてロス空港に到着し、河合総監ご一行のお出迎えを受けて、先ず北米への第一歩を踏むことができたのであります。

団のスタッフはすばらしい方達ばかりで、総勢五十四名とスカウト諸君の人数も程よく、すぐにもみなが打ち解けて、それでもやはり緊張したおももちで北米開教別院のご本堂に感動の参拝をいたしました。

盛大な歓迎会のもてなしをうけ、翌日からは総監のお骨折りとアメリカボーイスカウト、ロス地区のご好意で海岸のスカウト専用キャンプ場に二泊三日のキャンプを体験させていただいたのです。

おそらくみんな初体験のシー・カヤックや大きなボートに心ゆくまで海を楽しんだ上に、地区本部のスカウトリーダーがスカ

ウトたちを引き連れて、山のようにプレゼントを持って何度も何度もきてくれるので一同目をばちくりの楽しい交歓など、竜宮に行った浦島太郎のような海辺のキャンプとなりました。

第四日めはこれ又楽しい行楽づくめ、ユニバーサルスタジオとデイズニールランドを一日で見物しようというわけで、行楽にもずいぶん体力が必要だと、私などは愈々自分の老化を思い知らされた一日でした。

河合総監を始め、終始付き切りでお世話をくださった加藤主事さんや舞踊家の力丸先生たち、その他ロス別院のメンバーやボーイスカウトの皆様になごりを惜しみつつ北米開教区の訪問参拝を終え第二の訪問地ハワイへと向かったのであります。

今回のハワイ訪問は、ハワイ別院は最後に残すこととして、いきなりヒロへ向かう事となっていました。ヒロの明照院には



TROOP 50. HILO MEISHO

スカウトの団があって、もうその団との交流は二十年間にも及ぶ長い長いお付き合いとなつていくのです。私たちと先方のリーダーや団の関係者の皆さんとは「しばらく、しばらく、ご機嫌いかが」と、とても懐かしく握手に力がこもります。

第一回のハワイ訪問にスカウトとして参加した浜田少年は、今回はスカウト統率の重責をになう、たのもしく憂快なボーイ隊の隊長、跡継ぎの息子「大ちゃん」を伴っての参加、同じく当時の吉沢少年も今回は重要な団付きリーダーとなり、同じく息子の「孝道君」もボーイ隊員で親となつての再度の訪問と言うわけで、参加のメンバーにも、受けてホストを勤めてくださる皆さんにも、いわゆる世代の厚み加わって、お互いの感慨も又更にひとしおと言つてころであります。

ヒロ明照院の皆さんにお迎えを頂き、可愛いフラダンスやおてま入りの御馳走の後、スカウトの諸君は今回もホームステイをさせて頂き、またまた沢山の新しい絆が結ばれる事となつたのでした。

この島の皆様にも別れを惜しんで探手をくりかえしながら最後の訪問地マウイ島へ。

初対面の柴村ハワイ総監も、積年の知己のごとくに、気さくにお迎えをくださって、ハワイ別院に参拝し、ここでもまた別院メンバーの皆さんの大歓迎を受けました。

総監のご案内で戦没者墓地パシフィックにも参拝しました。又、この島のハレイワ浄土院は、かつてヒロ明照院のスカウトリーダーであった松並氏が今では浄土宗僧侶となつて住職をせられてお寺であります。

参拝の後には、再度太平洋に泳ぐという、すばらしい水泳を味わう事ができました。この時の牛弁当のポリニウムはすごかったとみんなが異口同音、完全にお腹に納めたスカウトも何人かはいたらしい。

その他、ワジラワンサ師のおいでになるカーチスタン寺院にも参拝し、歓待をうけました。いちいち想い出をたどれば果

てしもないこととなるので、此のあたりでひとまずペンをおく事といたしますが、私たちを心を尽くして迎えてくださったロズやハワイの皆さん様に心から感謝したいと思ひます。

又、同時に、およそ百年の昔より海外に進出して苦勞を重ねた人々を思い、又その人たちのために阿弥陀如来のお仏像を奉じて開教に尽した念仏僧の方々の尊いご努力に対して、敬意の念をさらに深く持たせていただいたのでございました。

参加スカウト諸君の感懐はど

うであったでしょうか。きっとそれぞれに大きな想い出を持ってくれたでありましょうし、同時に此の巡拝旅行の体験を通して人間としての大きな成長の一段階を進めてくれたであろうと私は思っているところであります。

最後になりましたが、東海林先生以下全スタッフの皆さんの御奉仕に、伏して御礼をもうしあげ、今後においても変わらぬご協力をお願いしたいと思ひます。

合掌

大張り切りの団長／





TROOP 50. HILO MEISHO

第6回浄土宗スカウト

海外派遣に参加して

良い友達が沢山出来た

ボーイスカウト京都第二十七団 竹 本 優 介

第6回浄土宗スカウト海外派遣に参加でき、本当によかったと思いました。

この海外派遣で僕はボーイスカウトのすこさを改めて知りました。それは、ユニバーサルスタジオで乗り物に乗ろうと並んでいた時、こちらのスカウトに偶然会いました。僕は制服を着ていた為、お父さんが話しかけてもらえ、「この子もボーイスカウトをやっているんですよ。」と言われました。僕はたまたま交換用品を持っていたのでそれを渡してあげると、「ペンフレンドになつてくれませんか？」とお父さんが言われたので、「いいですよ。」と答えると住所を書

いた紙をくれました。僕は、ボーイスカウトに入っていないけれどこのような出会いはなかったし、外国の友達も出来ないだろうと思いましたが、ボーイスカウトという大きな看板を背負う限り、今後いろいろな人との出会いがあると思います。スカウトのおきての二番目「スカウトは友情に厚い」にあるように、一回一回の出会いを大切にしていきたいです。

ホームステイ先でも楽しい思い出が出来ました。一日父母になつてくれたのは、Ouchiさんです。一泊二日の短い時間の中で、買い物やプールに連れて行ってもらうたり、世間話をしたりして楽しく過ごしました。家を出発する時には写真を撮って、「また遊びに来ます。」と言って別れました。空港にまで見送りに来てもらい、笑顔で手を振ってましたが、本当は寂しかったです。

今回は浄土宗スカウトという事で行く先々でお参りをしました。念仏を唱えていると眠くなる時もありましたが、六道の話が聞けて、自分を見直す事が出来ました。十泊十一日という短い期間でしたが、良い友達が沢山出来ました。五年後、参加出来るのなら、もう一度行きたいです。この海外派遣は僕にとって感動の連続でした。本当によい経験をさせてもらいました。



スカウト同志



文楽風景



朝礼風景(A)



カヌーカヤック体験



朝礼風景(B)

最後に、お世話になったリーダーの方々、どうもありがとうございました。

またどこかで会える日を楽しみに……。

心に残ったこと

ガールスカウト長野三十六団 安静 智子

私が、今回の海外派遣に参加して一番心に残っていることは、パーティーや交換会、ホームステイで、現地の方々と、話ができたことです。ホームステイでは、一泊二日という短い間でしたが、ヒロのスカウトさん達と話をすることができました。ホームステイ先の女の子とも仲良くなれてハワイのことを、いろいろ聞きました。最後の日、八月二十五日の夜の、サヨナラパーティーでは特にいろいろなお話を聞くことができました。私達の生まれる何十年も前にあった戦争のお話がほとんどでしたが、どのようにしてハワイに来たか、など、いろいろなことを教えていただきました。そういう現地の方とお話をしたことを忘れないようにしたいです。

楽しかったことは、ロサンゼルスでのキャンプのスケジュールです。プールには入ることが

できず、カヌーに乗れませんでしたが、クラフトでTシャツを作ったり、ローボートに乗ったりと、みんなと少し違うけど、楽しい思い出ができました。

MIYAKO INNのホテルでは、太田さんと二人部屋でしたが、毎朝モーニングコールが鳴りおわってから又ねてしまい必ず集合時間におくれてしまいました。時間厳守は大切だなあと、反省もしますが毎朝エレベーターまで二人で走ったことは忘れられません。

パンチポール参拝の時、正面に見た女の人の像の顔が印象的でした。戦争に対して、表情がすこく、人々の心を表しているようで、少しこわい、という感じもありました。

自由時間の時に、レンジャーの「みのさん」と行動しましたが、ホノルルは広くてBFSには乗ったものの降りるところを

間違えて、てっかてっかの太陽の下ですつとすわっていました。でも、どこへ行くのにも十八才未満は五十セントというのは安かったです。

十日間という短い間でしたが、楽しいことばかりでなく、朝早かったりつらいときもありましたが、それでもこのメンバーで十日間楽しくすごすことができました。最後の日になって帰りたいなくなっていました。でも、日本へ帰っても今回のこの経験を生かして、スカウト活動にはげみたいです。また、この同じメンバーで行けたらいいな、と思います。

楽しく、いろいろ学ぶことができた最高の十日間でした。



明るいスカウトでした



G. E. PLOUERI DO NIPPAKUJI

第6回浄土宗 スカウト海外派遣団を終えて

南米派遣団員 巖谷勝正

私にとって、未知の国、はるか遠い国、アマゾンとコーヒーの国、その国にどのような人がどのような生活をしているのか、全く想像もつかない国、それがブラジルでした。

今回、南米派遣というご縁をいただいで、また一つ私の世界観が変わったような気がします。ブラジルはアメリカ合衆国と同様に移民国家でした。しかしながら、どこか違います。アメリカの日系人社会というのは、日系人の集まりではあっても、今はほとんど日本語のわからない日系のアメリカ人社会ということが言えます。星条旗の下、みんなアメリカ人という意識を持って生きている感じがします。

それに比べてブラジルは、それぞれの移民がそれぞれの国のアイデンティティをそのまま持ち込んだ国家社会と言えます。日系人社会はまだ日本村のような感覚を持って日本人を受け入れてくれます。

このことを南米開教総監の佐々木上人は「モザイク国家」ということばで表現されていました。

日伯寺で前のボーイスカウトの団が、一時休隊となった原因についての手記を拝見いたしました。このことについて、隊長の確保という問題もありますが、同じブラジル人といっても決して他の民族とは同化していかない難しい面があるからではない



ナイヤガラの滝が可愛そう/
イグアスの滝で



マリンガ別院にて

かと思いましたが。
 この度、ボーイスカウトを再
 発団するに当たって、この国の
 歴史やその土地土地の習慣を熟
 慮された上での決断と思います。
 またこの度、治安の良い土地の
 提供を受け、安心して活動でき
 る場所ができたことは本当に喜
 ばしいことと思います。

今後のご発展を心より祈念申
 し上げます。
 蛇足になりますが、モザイク
 国家の良いところは食事です。
 それぞれの民族がそのお国柄の
 味を再現しようと努力している
 ように思われ、大変おいしくい
 ただきました。



交歓風景 櫻井君がキリリとしていた



ピッカピッカのスカウトを囲んで



ホン・デ・アスーカルを背に



ブラジル、アルゼンチン、ウルグアイ
 三ヶ国の接点に立つ

ペンの全国リレー

スカウトに聞かせる話

「ジコチュウってきらい！」

浄土宗スカウト連合協議会理事
京都文教女子中・高等学校教諭

永野 貴子

◎嫌いなタイプ・好きなタイプ

最近、中学生のあいだでは、「ジコチュウ」という言葉がよく使われている。それも他人に對してよく使われる。「あの人、ジコチュウや」とつまり、「あの中は、自己中心だ」ということ。かれらは、ジコチュウを許さない。なぜ許さないのか。ジコチュウがイヤだからではない。キライだからなのだ。イヤとキライは違うらしい。本当は同じ漢字で表すことも出来るのであるが、かれらにとっては少しニュアンスが異なるようだ。イヤということは、好まないという程度で使い、キライという場合には、切り捨てる。つまり区別して除き去りたい思いがこめられているようである。

そこで質問。どんなタイプの人が好きなの。圧倒的に多い答

えが、優しい人。優しい人ってどんな人なの。自分のことを何でもわかってくれて、合わせてくれる人。楽しい時には一緒に楽しみ、悲しい時にはいたわり、落ち込んでいる時には明るい雰囲気でも温かく接してくれる人。そうなのか、相手が自分にどれだけ合わせてくれるかが問題なのか。それじゃジコチュウではないか。

◎絶対なりたくないタイプ

質問をもう一つ。絶対なりたくないタイプってあるかな。答えは意外とジコチュウではなく、他人に迷惑をかけること、であった。確かに他人に迷惑をかけることはよくない。なかなか心がけがよろしい。といたいところであるが、ちょっと待てよ。そういうえば、こんな会話をよく

耳にすることがある。ルーズソックスのどがいけないの、だれも迷惑してないじゃん。そう、だれも迷惑してないね。迷惑をかけさえしなければ、なにをしてもいい、ということになるのか。そういうえば、この理論においてはまる身勝手な行為が多い。

これはなかなか心がけがよろしい、とはいってられない。やはりこれもジコチュウだと気付いてもらわねば。

◎自分はどんなタイプ

最後の質問。あなたは、どんなタイプなの。自分ってどんなタイプかよくわからない。まあ、こんなものかなって思っている。それじゃ答えになっていないよ。自分をもっとよく観察してみようよ。たとえば、うれしいと感じるのはどんな時かな。もちろん、ほめられた時、感謝された時、優しくしてもらった時、自分の思うような結果が出た時。それでは反対に腹が立つのは、どんな時かな。それは、叱られた時、裏切られた時、無視された時、やろうとしていたことが

思うように出来なかった時。ならば、あなたはどんなタイプなの。みんなと同じ普通のタイプでも、イヤだけどちょっとジコチュウかな。そう、やっぱりジコチュウなんだよ。

◎イヤかキライか

他人のジコチュウは、許せない、キライ。自分のジコチュウは、イヤなだけ。これこそ、本物のジコチュウ。どうしてそうなるのだろう。きっと自分がイヤだと思っていることを、他人の中に見出した時、許せなくなるのかもしれない。これはひょっとすると自分だけではなく、まわりの人間もそうなのかもしれない。イヤかキライか。つまり許せるか、許せないか。自分は許せるが、他人は許せない。相手もそう思っている。困ったことだ。

許し合ってゆこうよ。認め合ってゆこうよ。ジコチュウってイヤね、でいいではないか。そうすればきっと、本当に優しい人になれると思うよ。



今、うちの団では……

各地のスカウトだより

未来の自分探しを

ガールスカウト

滋賀県第二十三団

昨年八月、北米派遣団の一員として八名のスカウトを参加させて頂きました。参加させて頂くまでは、スカウト活動より、学校の部活動の方に足が向いてしまいがちのスカウト達でした。けれども、この派遣を通して、自分達のスカウト活動に対する反省をし、今後どのような活動をしていけばよいか考えるよい機会を与えて頂きました。その活動の始まりとして、スカウト自ら、三月の長野での仏教堂に向けて参加させて頂く計画をしております。「選択の光、いまに」という浄土宗にとっても記念すべき年に仏教堂を受けさせて頂く機会を与えて頂き、スカウト

一人ひとりが現在の自分を見つめ直し、未来の自分探しができるかと思っております。

この仏教堂を初めとして、今年には派遣で共に過ごした他の団との交流を通して、スカウト活動を充実させていきたいと考えています。



「老人ホームへ

餅を届ける」

ボーイスカウト柳井第三団

平成九年十二月二十七日(土) 毎年恒例の餅つきを一年間の締めくくりとして行なった。例年は、自分たちだけで食べていたが、今年は、スカウトの発案で、柳井市の老人ホームへも届けようということになった。

カブスカウト二十名、ボーイスカウト十名の者が早朝より参加、石うすやきねを洗ったり準備し、いざ餅つき。今年は老人ホームに持って行くため、八升



の餅をつく。餅をつくのは重労働である。中学生が主につき、小学生が最後にちよこっとつくという手順でつく。「よいしょよいしょ」のかけ声で気合いと粘りの入った餅がつきあがる。つきあがった熱い餅をお年寄が食べやすい大きさに丸め、ビニール袋につめる。二三〇個の餅を詰めて、老人ホームに班長が届ける。代表者が出て来られ大変感激されていた。

スカウト達はつきあがった餅をほおぼり、来年も届けようと話し合っていた。

「日本ジャンボリー」参加

ボーイスカウト大田第一団

今年は何と言っても「日本ジャンボリー」参加という、大きな目標があります。わが団からは十名のスカウト・リーダーの参加が予定されています。そのための訓練・準備で忙しくなりそうです。また、正式参加とは別に見学参加も予定しており、今年にはジャンボリー一色というところですか。

今春には、海外青年協力隊の一員として、アフリカのガーナにいるリーダーが赴任を終えて帰国しますが、別のリーダーが



世界一周の一人旅に出ます。ジャンボリーに参加できない事を残念がっていましたが、わが団を代表して、世界各国のスカウトと交流して来てくれると思います。特に二十数年前に、わが団と交流のあったブラジル・サンパウロのスカウトと旧交を暖めてきてくれる事でしょう。今から土産話が楽しみです。

新入団希望者説明会・

涅槃会

ガールスカウト石川県第五団

三月七日(土)新入団希望者説明会

立春を過ぎ少し春らしくなってきた雑祭りの頃に、入団を希望する子供達の説明会を開きます。子供が少なくなつたのと、お稽古ごとの種類が増えたので、入団者も年々減少しています。九年度はBr二十四人・Jr二十四人・Sr十五人・Rr九人、合計七十二人で登録出来ましたが、十年度はどうでしょうか。今までは、お雛様を創ったり、お茶会をしたりして、スカウト活動の楽しさをアピールしてきました。今年、親子で一緒にゲームに参加していただいて、交流を深める一時を過ごしたいと思っています。

三月十五日(日)涅槃会

北陸の二月は、雪で足下が悪いので、団子捲きを一ヶ月遅れでしています。今年もよい年でありませぬ様にとの願いを込めて善哉(ぜんざい)をリーダー達が作りまします。二〇〇人程のお詣りの方々にスカウトが、美味しいぜんざいをお運びします。如来寺本堂で大きな涅槃図を拝観しながら、釈迦入滅のお話を聞きます。その後で、七色の涅槃団子をワイワイ言って拾います。家で食べたり袋に入れてお守りにしたりします。



「3分間スピーチの励行」

ボーイスカウト大阪第一二四団

私達の団では、セレモニーの前にスカウト達にお話をしていただくのは主に団委員長さんや隊長さんの役目のようになっています。これでは、団委員長さんや副長さんが新聞の記事などからこんなお話をしたいと考えておられてもその機会がないのが

現状です。

指導者の皆さんが、身のまわりの事や自分の経験を通じてスカウトの年代にあった理解しやすいお話をしていただくのが良いのではないのでしょうか。

年頭にあたって、これからは皆さんにお話をしていただく機会をつくる「3分間スピーチの励行」を提案し実行をしたいと考えています。その事によって事前に話の内容を勉強もされるのではないのでしょうか。

また、人前で話をするのが苦手な人もだんだん慣れてこれられて話上手になられると確信しています。

「新しい年を迎えて」

ボーイスカウト

東京連盟台東第二団

昨年は当団にとって大変名誉な事がありました。昨年十月に行われた日本連盟創立七十五周年の式典に於いて原団委員長が登録継続七十五年と永年の功績により、全国で九名の中の一人として特別表彰されました。今



年は一月末に団としての祝賀会を行い、気持ちも新たに新年度の行事に突き進んで行きたいと思いません。今年特別な行事は予定しておりませんが、春休みのカブ・ビーバーの行川での合宿、各隊の野営。夏はジャンボ

隊合同の野営、秋のバザー等、年中行事を充実して行く予定です。又、一昨年暮れに約三十年ぶりに富士スカウトが誕生し、現在十数名のシニアスカウト達が全員目標を持って頑張っています。

「スカウトの道は」

菩薩の道

ボーイスカウト草津第一団

平成十年。今年寅(虎)年です。古来、虎に関する話は多々ありますが、佛教にも虎の出でくる古い話「捨身飼虎」の物語があります。ある時、一人の修行者(お釈迦様の前世の姿)が座禅をしているところに、飢えた虎の親子が現われ、食を請います。何も与えるものがなかった修行者は、自分の身を投げそ

の虎の親子を救ったという話です。この話は早くから日本にも伝わり、法隆寺の玉虫厨子にも猫かれています。ところで、この物語は「自分自身の修行（自利行）のみでなく、他のものにその功徳を分け与える（利他行）布施行」ことの大切さを述べたものであり、それが本来の佛道＝菩薩の道であることを示しているのです。この考えは、私達が携っているスカウト活動の精神に全く通じるものなのです。即ち、私達スカウトが最も

大切とする「ちかい」そのものの中に生かされているのです。毎回立てるあの「ちかい」を思い起して下さい。第一条で信仰を持つことの重要性を示し、第二条で他のものに対する奉仕の精神（これが先にいう利他行・布施行＝菩薩の道）を詠い、第三条で自己の身心の健全な育成を説いていますね。つまり、いかにスカウト活動が利他行＝菩薩の道であるかをより強調し示してあるのです。

草津第一団も間もなく団創立



五十周年を迎えようとしています。暦でいう半世紀です。この年月は単に長いというものでなく、その間培われてきた数多くの人達や実践の積み重ねの時間なのです。本年、この寅（虎）の年。もう一度、スカウト活動の原点に帰り、その精神の重要さをかみ締め、より良き実践に生かして行きたいと考えています。

私の団では

こんなことを

予定しています

ボーイスカウト

東京連盟台東第四団

私の団は、東京の浅草に昭和二十五年の暮に東京第六十七隊としてうぶ声を上げました。現在は台東第四団で、登録総数百六十五名であります。

発団当初より仏教団としての性格を標榜し、年間を通じて仏教行事をプログラムに取り入れており、団の年中行事として、元旦の新年祝賀式（修正会）、四月の花まつり、十二月の成道会等を行っており、班集会、隊集会



の開式の始めに、合掌礼拝を致します。

本年は特に新しい行事はありませんが、来年の平成十一年は、発団五十周年記念行事を予定しております。すでに昨年から企画をたてており、今年はその準備の年であります。十一年四月二十九日五十周年記念式典、八月二十日前後記念合同キャンプ、そして五十周年記念誌発行とこの三つのイベントを成功させるべく、団をあげて準備をしております。

今年のわが国

ボーイスカウト木更津第二団

新年はお茶会から始まる。本堂でご回廊の後、正座をして一服のお茶を頂く。

スキー訓練も春休みの楽しみの一つだ。

日本ジャンボリーにむけて派遣隊、見学隊の準備と夏のキャンプなど忙しくなりそうだ。

ボランティアを中心に地域の青少年育成機関、団体が相互に連絡調整しあいながら諸問題をより効果的に解決し、もって明るく住み良い社会を作ることを目指すにしたいBIG&Rの会と言う会が作られて活動している。

ボーイスカウトのB、インターアクトのI、ガールスカウトのG、ロータリークラブのRの頭文字をとったものである。

老人ホームの慰問、街の清掃奉仕活動、歳末の募金活動など活動の幅は広い。

副住職の山本恵司師が今年より同委員長になり夢をふくらませている。



おめでとう、お姉さん

ガールスカウト

山口県第二十三団

十一月二十九日、山口県青少年育成大会で、Rrの河岡さと子、平田貴子の二名が、山口県青少年育成県民会議会長表彰を受賞しました。十二年間真面目にスカウト活動に取り組み、日本連盟、県支部行事にも積極的に参加し、研修の体験を生かし、リーダーを助け、後続部門のスカウトの面倒をよくみ、奉仕活動にも進んで参加し、次代のリーダーとしての期待も大きい二人

です。十月の集会で、日本連盟戸隠キャンプ場での全国キャンプのお話をお姉さん達から聞きました。大自然の中で天候の変化にもまげず、初めて出会った友と仲良く話し合い挑戦した数々のプログラムを、写真や説明図で皆を楽しませ、夢を希望をもたせてくれました。BrやJrの目は輝き、新しい歌やゲームの指導もあり、質問せめに会い乍らも大にぎわいで、リーダーとしては、次の団キャンプが楽しみです。二人のお姉さんは、今大学入試の最中です。



喜びの二人

編集室より

浄土宗スカウト連合協議会結成三十周年を記念して北米・ハワイ並びに南米への派遣が実施されました。どちらの派遣団も成功裡に円成です。参加団員皆様に深くより御礼申し上げます。

約東通り海外派遣特集を組むことが出来ました。北米・ハワイ派遣団は、派遣団長のお話しの通りしっかり交歓を深めてきたようです。

今後益々海外の仲間と交流を図り、世界に通用するスカウトになってもらいたいと思います。

南米派遣団はスカウターでいってきました。再出発の日伯寺スカウトをしっかりと励ましてきました。

浄土宗スカウト栄弥ノ

スカウト浄土(第十八号)

発行/平成十年三月十五日

京都市東区林下町

浄土宗宗務庁社会局内

浄土宗スカウト連合協議会

編集者/東海林 良 雲

印刷/利商印刷(株)